

定時総会を会津で開催

新世代PCa 丸治コンなど5社入会

新世代PCa工業会（会長＝篠田佳男氏）は7日、福島県会津若松市の生涯学習総合センター・会津稽古堂で平成23年度定時総会を開催した。総会では平成22年度事業報告・収支決算報告、平成23年度事業計画案・収支予算案などを審議していずれも原案通り承認した。

開会にあたり挨拶した篠田会長は「新世代PCa工業会の設立総会以来、7年ぶりに会津で総会を開催することになった。会員社は正会員・賛助会員を合わせると21社が増えており、また開発成果も一つひとつ着実に世に出すことができている。ここで改めて原点である会津の地に戻って、さらに元気を出して工業会活動に取り組もうという気持ちを込めて、今回は会津で総会を開催することにしました。会津では昨日から当社が主催するコンクリート技術大会が開催



篠田会長

されている。会員各社にとっても非常に有意義な内容になっている。是非、技術大会にも参加して技術力の向上に役立てて欲しい」と述べた。

また同工業会技術顧問で東京工業大学名誉教授の長瀬重義氏が「新世代PCa工業会の活動内容については逐次、篠田会長から話を聞いている。ステンレス鉄筋を活用した各種製品の開発や、ひび割れ抑制工法のND-WALL工法の開発など、新世代PCa工業会の技術開発は、まさに新世代を開拓するもので大変頼もしく思っている。また昨日から始まったコンクリート技術大会は、篠田会長の東北に対する想いが込められた企画だ。東日本大震災の復旧・復興に向けた技術支援の観点からも非常に意義のあるもので、その成果に大いに期待をしている」と祝辞を述べた。

議案審議は、篠田会長を議長に選任して進められ、決算予算関連などの全議案を原案通り承認した。また任期満了に伴う役員改選では篠田会長の再任を決めた。その他新入正会社として永井コンクリート工業（新潟県）丸治コンクリ

ート工業所（岐阜県）、賛助会員社として三友エンジニアリング（千葉県）・西鋼（大阪府）・愛知製鋼（愛知県）の合計5社の入会が報告された。

なお同総会で決まった平成23年度の主な事業計画は次の通り。

①ステンレス鉄筋使用埋設型枠の開発・実用化（高靱性パネルの実用化・NETISへの登録）②PCa部材を使用したND-WALL工法Ⅱの開発（超遅延剤の効果の確認）③ステンレス鉄筋使用高強度部材の開発（実構造物への適用検討）④その他（日本コンクリート技術との合同で技術交流会の開催・HPを通じて広報活動や情報発信、会員間の情報交換）。

新世代PCa工業会では、ステンレス鉄筋を活用した部材開発と

温度ひび割れ抑制工法などの開発に取り組んでいる。ステンレス鉄筋を使用した部材開発では構造部材（橋梁など）をはじめ、埋設型枠などを開発。既に早稲田大学や宇都宮大学の協力を得て基礎実験を終えて実用化段階を迎えている。

こうした開発製品は震災の復旧・復興技術としても注目を集めており今後、新たな需要を創出するコンクリート製品として関係者が大きな期待を寄せている。

ステンレス鉄筋は、2008年にJIS化され、さらに土木学会からも設計施工指針が刊行されている。同工業会の篠田会長はJISや学会指針の作成に深く携わってきた経緯があり、ステンレス鉄

筋に関する技術情報量は業界トップクラス。また工業会の賛助会員に鋼材メーカーなどが加わっているのも強みだ。

一方、温度ひび割れ抑制工法の開発では、誘発目地を使ったND-WALL工法Ⅰを実用化。NETISにも登録（TH-080005-A）され、全国で採用実績が伸びており順調に普及が進んでいる。さらにMD-WALL工法Ⅱとして超遅延剤を使った新工法の開発にも取り組んでおり、今年の夏には実物大の試験体を使った実証実験を実施、実験には厚さ15ミリの薄肉埋設型枠を使用するなど実用化に向けた取組みが続けられている。



総会が開かれた会場

ステンレス鉄筋を使用した差別化製品の市場を創出する

新世代PCa工業会

会長 篠田 佳男

新規会員募集中

事務局 東京都墨田区両国4-38-1
日本コンクリート技術(株)内
TEL 03-5669-6653
FAX 03-3632-2970
URL www.new-pca.gr.jp